

次に、川上から川下に亘(わた)るまで、持続可能な社会システムの基盤を創り、確かな信州を支える『環』です。環境との共生を目指す人間活動が評価される成熟した社会を創るため、目先の経済性だけに立脚せず、真っ当に暮らす者たちが損をしない仕組みや、それらに対する支援制度を充実してまいります。

奇(く)しくも本日2月16日、地球温暖化防止のための世界的な枠組みを定めた京都議定書が発効となります。平成14年5月に市民、学識経験者、経済界、行政等、様々な主体からなる「信州・地球温暖化対策研究会」から大変にドラスティックな内容に満ちた「地球温暖化対策『長野モデル』第一次提言書」を頂戴(ちょうだい)しました。そのご提言をもとに、県では平成15年4月に「長野県地球温暖化防止県民計画」を策定いたしました。温暖化の原因とされる温室効果ガスの排出量は残念ながら減少するどころか、未だに増加し続けております。

しかし本日ここに、地球温暖化防止を切望する人々の想いを可及的速やかに実現することこそは、数多(あまた)の水源を有する美しき我らが信州・長野県に課せられた使命＝ミッションであることを改めて誓い合い、全国の都道府県に先駆け、地球温暖化対策を具体的に進めるための条例の制定を目指し、より持続可能な脱温暖化社会を構築するための大きな仕組みを発信するとともに、目に見える形で対策を進めてまいります。その象徴的取組として、信州の玄関口である軽井沢の市街地へと群馬県境の上信越道碓氷軽井沢インターチェンジから続く県道下仁田軽井沢線を始めとして県内各地で信州型木製ガードレールの設置を充実させるとともに、長野道松本インターチェンジから上高地までの交通信号機をすべて、見やすく、消費電力を大幅に削減できる発光ダイオード式に交換し、人と自然にやさしい交通環境を整備してまいります。

また、本格的な建設工事が始まっている稲荷山養護学校、来年度建替え予定の6箇所の交番・駐在所などの県有施設において、出来る限り県産材を活用するとともに、太陽光の利用を進めてまいります。

また、主に中小企業の事業所における省エネを一段と進めるため、環境保全の取組に積極的な企業の有志により結成された、「信州省エネパトロール隊」の活動を支援してまいります。